

高浜3号機 伝熱管損傷

関電 原子炉起動遅れる見通し

関西電力は17日、定期検査中の高浜原発3号機（高浜町）の蒸気発生器内の伝熱管2本に損傷を確認したと発表した。外部への放射性物質の漏えいはないとしている。小型カメラで損傷を詳しく調査するため、12

月上旬に予定している原子炉の起動は遅れる見通し。

伝熱管は長さ約1・3ミ。原子炉内で温められた水が流れ、タービンを回す蒸気をつくる。1本は外側からの減肉で、管の厚さが最大63%削られていた。鉄

さびの影響とみられる。高浜3号機では2018年から同様の損傷が相次ぎ、今

回で7本目。

もう1本には長さ約5・8ミのひびがあり、管にか

かる圧力などが原因とみられる。2本とも栓をして使用をやめる。